

## 4月中旬～5月中旬までの多雨などに伴う営農技術対策

平成23年5月18日  
北海道農政部

4月中旬～5月中旬の気温は、低温に推移し、降水量も多く、地域によっては、降水量が平年の2倍近いところもあり、農作物の生育や農作業の遅れがでております。つきましては、以下の技術対策を参考に、適切な対応に努めてください。

### 第1 野菜

#### 1 施設野菜

- (1) 作物の生育適温を下回る気温で経過する場合、肩換気の調節により、保温に努め、夕方は早めに閉めて夜温を確保する。
- (2) 夕方気温が低下する場合は、ハウス内にモヤが発生する場合がある。灰色かび病や菌核病、べと病等の発生が多くなるので、一度モヤ抜き換気を行うなど湿度が高まらない管理を行う。
- (3) かん水は少量多回数とし、地温の確保に努める。
- (4) きゅうり、ピーマンなど果菜類で肥大の遅れが生じた場合は、摘果を行い肥大の促進と樹勢の維持に努める。

#### 2 トンネル・露地野菜

- (1) にんじん、だいこん、ごぼう等の根菜類はは種に当たって、ほ場の土壤水分に注意する。砕土が不十分な状態では種を行うと発芽不良や発芽後の生育に支障をきたすことがあるので、無理には種をせず、状況によっては種計画の見直しをする。
- (2) 移植作業が遅れている野菜は、育苗ハウスの温度を下げて苗の徒長を防止する。また、かん水は少量多回数とする。なお、萎れや葉の退色を伴う極端な水切り、障害の発生するほどの低温で管理すると苗の老化を助長するので注意する。
- (3) 苗が黄化してきた場合は、液肥による葉面散布や追肥を行う。
- (4) メロン、すいか、かぼちゃは、人工交配により着果の確保に努め、着果がばらついた場合は、着果棒立てを励行し、着果時期を確認して、適期収穫による品質維持と出荷計画の修正等に活用する。
- (5) 移植後、降雨によりクラストが発生した場合は、中耕を実施して生育の促進を図る。
- (6) ねぎのべと病、アスパラガス斑点病など、日照不足や多湿により発生しやすい病害の発生動向に注意して適正な防除に努める。

### 第2 花き

#### 1 施設栽培における適切な管理の実施

- (1) 生育が遅延し、更に低温傾向が憂慮される場合には、被覆資材の活用ときめ細かな開閉調節により、品目と生育時期別の適温確保に努める。
- (2) 生育が遅延している品目では、この遅れに連動した管理作業の適期実施に対応する。

#### 2 切り花類の出荷遅れ対策

- (1) 開花遅れの的確な把握に努め、今後の需給動向を検討しながら計画出荷に向けた受光改善の資材や保温等の資材活用、更に補助加温の利用も図る。
- (2) 品目によって生育遅延が長期に及ぶ場合、出荷計画の微修正も検討し生産対応する。

#### 3 病害虫の適正防除

病害虫の発生動向に留意し、特に低温多湿に伴う病害に注意した適正防除に努める。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-823）